

活用していますか？

カンタン作業で、ムラなく拡散！ 省力的な防除法「くん煙剤」

約70年前に開発されたくん煙技術は、加熱によって有効成分を煙状の微細な粒子としてハウス内に均一拡散させる防除法です。

「スマート農業・省力化」がますます求められている昨今の農業。

作業が簡便なくん煙剤をローテーション防除に取り入れてみませんか。

【日曹のくん煙剤ラインナップ】



くん煙剤の特長

- ① 作業時間が短くて、使い方が簡単。
- ② 成分が煙で拡散するから、防除効果にムラが少ない。
- ③ 収穫間近に使用しても作物が汚れにくい。
- ④ 水を一切使用しないから、ハウスの湿度を高めない。
- ⑤ 人体に薬剤が触れることが少ない。

そーだ、
にほんそーだに
そーだんしょう！



栃木県オススメの新品種「とちあいか」の病害虫防除に、 水を使わず省力的な「くん煙」の技術はマッチします。



栃木県

JA
はが野

1968年産以降、55年連続で生産量日本一を誇るいちご王国・栃木県。その生産の3分の1を担うJAはが野で、農薬の普及指導に勤む佐藤さんと塚田さんにお話をうかがいました。栃木県では現在、日本一の座を長くけん引してきた「とちおとめ」から、オリジナル新品種「とちあいか」への転換をうながす戦略を進めていると言います。

「とちあいかは、とちおとめと比べて甘みが強く、酸味も少ないので、お年寄りから小さなお子さんまで幅広い世代に楽しんでいただける品種です」と佐藤さん。大粒で収穫しやすく、作業効率が増えるため、売り上げ増加が期待できるのが魅力だと言います。

「品質の良いいちごを作るためには、病害虫の防除が大切です。生産者の皆さんには薬剤散布でしっかり対処していただいています。今後は省力化に向けて『くん煙剤』の活用もお勧めしていきたいですね。」

くん煙剤については、塚田さんにそのメリットを詳しくお聞きしました。「とちあいかは大粒なので、マルチに接地している面積が大きくなります。そのため、薬液が溜まったところで果実が傷んだり、

着色不良が起こったりすることがあります。くん煙剤なら水を一切使わずに薬剤を処理できるので、そうした生産リスクを防ぐことが期待できます。」

また、くん煙剤の“省力性”も大きな魅力だと教えてくれます。

「通常の散布は、薬剤を水に溶かして全体的にかけて回るので、手間と時間がかかります。くん煙剤なら、作業が終わった夕方に、ハウスに薬剤をセットして着火するだけ。手間も時間も大幅に削減できますね。」

ベテランの生産者にはおなじみの防除法だという、くん煙剤。「今後、地域のいちご作りを担っていく若い生産者の皆さんに、この利便性を広めていきたい」と笑顔で語るお二人でした。



JAはが野アグリセンター二宮
塚田 由加利さん



JAはが野アグリセンター真岡
佐藤 麻菜香さん

栃木県のイチオシ品種「とちあいか」

2019年秋に初出荷された栃木県のオリジナル品種で、全国にその名が知られる「とちおとめ」を継ぐ大型品種として期待が寄せられています。大粒で丸みのあるきれいな三角型で、果皮は濃い赤色。縦に切ると断面がハート形に見えるのも特徴です。天候が悪い年でも育ちやすく、病害にも強いいため、いちご生産者にとって収益増加が望める品種として普及が進んでいます。





作業時間が格段に違う! こだわりの「とちあいか」作りに、 くん煙剤を活用していきたい。



栃木県真岡市 松本 泰弘さん

栃木県真岡市物井で農業を営む松本さんは、近隣でも指折りの大規模生産者です。管理するいちごのハウスは全部で33棟。50m規模で27棟、80m規模で6棟、面積はおよそ1haにも及びます。

「すべてのハウスで、従来品種の『とちおとめ』から県が推奨している『とちあいか』に切り替えて、今年で2作目。まだまだ手探りですが、甘くて大きいいちごを目指して、有機肥料を使った土作りにこだわりながら栽培しています。」



薬剤散布の苦労と、果実を傷める不安…

松本さんが、いちご作りにおいて最も苦労を感じているのは、病害虫の防除です。「害虫に関しては、天敵ダニを導入することである程度は防ぐことができますが、病害については気を抜けません。とちあいか自体は病害に強い品種なので以前より心配は減りましたが、それでも萎黄病やうどんこ病などの被害に遭わないよう、予防的な薬剤散布は欠かせず行っています。」

いちごの収穫時期は11月から5月末までの半年間。ハウスごとに肥培管理をコントロールし、生育状況をずらしながら、月に2～

3回のペースで薬剤をローテーション散布しているという松本さん。しかし、時間帯や気温などの条件が合わずに計画通りの散布ができないことや、散布液が果実に触れて薬害が出てしまうなど、薬剤散布には苦心する点も多いといいます。

省力的で薬害軽減も期待できると進められた

そうした状況を地元JAに相談したところ、勧められたのがくん煙剤でした。

「水で薬剤を希釈せず、煙で拡散させる方法だから、薬液による果実への傷みが少ないという点。それと、散布作業のための時間を大幅に削減できるという点にかなり興味を持ちました」と、笑顔で語る松本さん。実際に、いちごのうどんこ病に登録のあるくん煙殺菌剤の「トリフミンジェット」を使用させていただき、その感想をお聞きしました。

あっという間に終了! おどろきの簡便性

「ものすごく簡単でびっくりしました。50mのハウスで初めて処理してみましたが、使った製剤はたったの2個。それに火をつけるだけでハウス全体に拡散して、あっという間に作業が終わりました」と、目を見張る松本さん。従来の水和剤散布では、500ℓのタンクに薬液を調製してから散布をすべて終えるまでに1時間半は必要だったといいます。

「ハウス1棟あたりで15分はかかっていた作業が、くん煙剤ならほんの数分。これなら一度に多くのハウスに処理して回れるし、時間も大幅に短縮できると思いました。今後はハダニやアザミウマ類の防除にもくん煙剤を活用してみたいですね」と目を輝かせる松本さんでした。

■処理方法

- ① 夕方にハウスを密閉
- ② 小箱から薬剤を取り出し、吊り金具を組み立てる
- ③ 吊り金具に薬剤と点火紙をセットし点火
- ④ 発煙を確認後速やかに退避し密閉
- ⑤ 翌朝ハウスを開放し十分に換気する



■成分が拡散する様子



2024年2月取材 個人の感想をもとに作成しています。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届くところには置かないでください。

2024年3月現在の情報に基づいて作成しています。



日本曹達株式会社

〒100-7010 東京都千代田区丸の内二丁目7番2号
お問合せ (03)4212-9655
(平日9～12時、13～17時、土日祝日を除く)



インタビュー動画
はこちらからご覧
いただけます